



西徳寺だより

5月号

Vol.163

「相手を認めていく」

諍あやわめいは諍あやわめいをもって止めることはできない。ただ忍にんだけが諍あやわめいを終おひら息きさせることができる。
『長寿王経』

9. 11 同時多発テロ事件以来、報復の連鎖を断ち切ることで、世界は混沌こんとんとしていきます。ネット・ニュースなどでは、怨うらみみをする必要性があると、『ダンマパダ(法句経)』第一章第五偈げのお釈迦さまの言葉がよく引用されています。でも、怨うらみみをするのが非常に困難くわんなんであることは、人類の歴史が物語っています。『長寿王経』では、報復の連鎖を終わらせるのは「忍にんだけ」だと明確に説いています。この「忍にん」はサンスクリット語の「クシャーンティ」の訳語で、「忍にん苦く」や「忍にん辱じやく」とも漢訳されます。

故長尾雅人先生はこの「忍にん」を大切にされ、「認にん」と同じであり、慈悲じひと一体の智慧ちえだとよく言われていました。一般的に「忍にん」は

「しのぶ」と読んで、現代では「我慢」の意味に理解しがちです。しかし仏教では、我慢とは「我われという慢まん心しん」でしかなく、自己中心の身勝手な思いで自己正当化して他者を認めずに批判ひはん否定ひていしている姿です。例えば、我慢に我慢を重ねていると最後には、堪忍かんにん

袋いぶくろの緒おが切れて、暴力的行為が生じます。ですから、仏教では「我慢」は否定されています。

さて、私たちの生活は、一見平穩へいおんに見えても、それは我慢がまんしているだけではないでしょうか。この我われという慢まん心しんこそ争あらそいの原因なのです。真の平和には、自己中心的な我慢がまんではなくて「忍にん」が必ずや必要です。それは相手を認めて許ゆるす「寛恕かんじよ」であって、智慧ちえに裏付けられた慈悲じひなのです。この「忍にん」の実践じしせんには、まず一人ひとりが自らの身勝手さを知ることが大切ですが、私たちは自らの過あやまちや愚おろかさを知るだけでも苦しみます。さらに、自分と異なる相手を認めることでも苦しみます。この苦しみの原因は

「我執がしやく・煩惱ぼんごう」という自己中心性であると信知しんちすることも「忍にん苦く」「忍にん辱じやく」の内実ないじつです。親鸞しんらん聖人は、仏の智慧ちえに触れて煩惱成就ぼんごうじゆじゆのわが身の愚おろかさを知らされているのですが、それはこんな身勝手なわが身を捨てず倦うむことなく認め許ゆるしてくださる慈悲じひの中にいるからなのです。そのことを、念仏申す身の上に慶よろこばれたのだと思います。このような姿が、報復ほうふくの連鎖れんさを断ち切る営みの第一歩だと味わいたいと思います。

『いのちの栞しり』(二) 自らを知らされる』

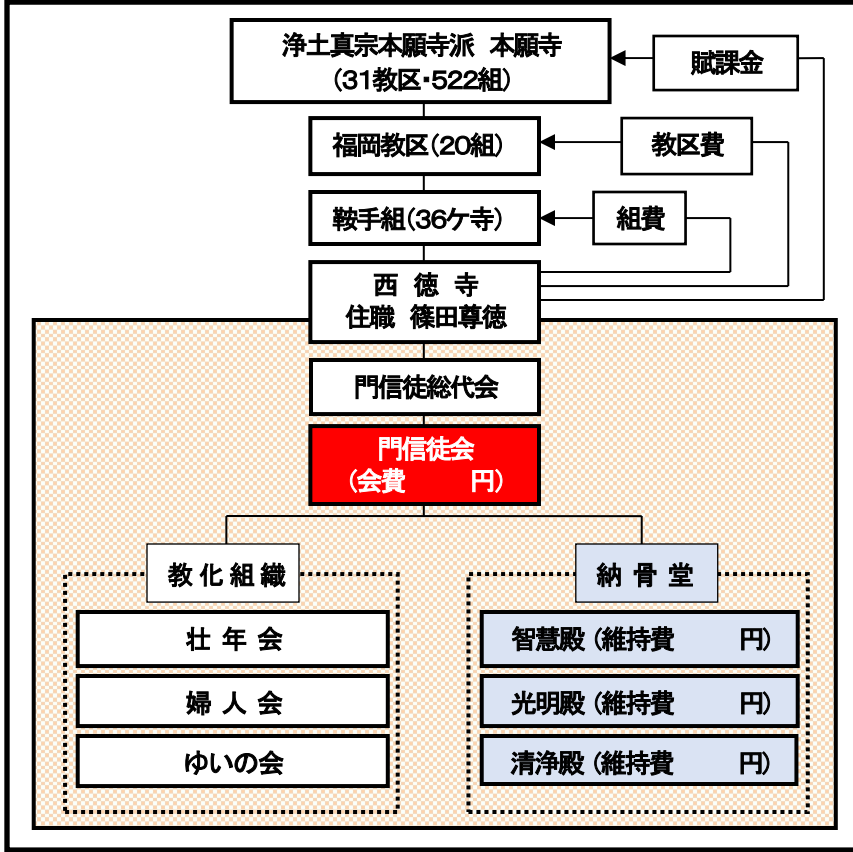
浄土真宗本願寺派勸学 内藤昭文(本願寺出版社 二〇一八年)より

令和八(二〇二六)年五月発行 編集発行 篠田 尊徳
〒八二二〇〇三四 福岡県直方市山部五四〇
浄土真宗本願寺派 覺音山 西徳寺
TEL 〇九四九二二〇六三六 HP <https://satokuji.net>
FAX 〇九四九二二〇六六七 MAIL satoku@oce.ocn.ne.jp



門信徒会費納入のお願い

西徳寺門信徒の皆様にお願ひしております「門信徒会費」、この度その「二〇二五(令和七)年度決算」が四月二十四日の門信徒総代会で承認されましたので、ご報告させて頂きます(別紙参照)。引き続き、二〇二六(令和八)年度分の振込用紙(郵便局用)を同封しておりますので、今年度分 **円**の納入をお願い致します。



尚、西徳寺のご門徒になられて間もない方もいらっしゃるし、「門信徒会費」と「納骨堂の維持費」との違いについて、問い合わせもありますので、改めてそれぞれの会費について説明させていただきます。

◇「門信徒会費」は西徳寺そのものの護持・管理に充てる費用(本願寺派への「賦課金」、福岡教区への「教区費」、鞍手組への「組費」と西徳寺の火災保険を主な支出としています。)で、全ご門徒に対して**年間 円**をお願いしております。
毎年『西徳寺だより』五月号に、前年度分の決算報告書と、当年度分の振込用紙(郵便局用の赤い用紙)を同封して送らせていただいております。

◇「納骨堂の維持費」は各納骨堂の維持・管理に充てる費用で、各納骨堂に加入されている方のみに対して**年間 円**をお願いしております。こちらは先日、各納骨堂加入者にお送りした追悼法要案内にて納入のお願いをしており、郵便局用の青い振込用紙を同封してお送りしております。

上の図にあるように「門信徒会費」と「納骨堂の維持費」はそれぞれ別組織の管理となり、総会日程の関係上、納入お願いの時期が**半月程度ずれます**ことを**ご容赦**下さい。物価高騰の中、誠に恐縮ですが、ご理解の上、ご協力をお願い致します。

婦人会追悼法要・永代経法要のご案内

「永代経法要」とは、今までに亡くなられた全ての人々をご縁として、今を生きる私達が、永代にわたって阿弥陀様のみ教えを聴聞し、受け伝えていくための法要です。

今年から一日目を婦人会追悼法要、二日目から永代経法要とする形に変更してお勤めさせて頂きます。どうぞ、先人が残して下さったお聴聞のご縁を大切にお参り下さい。

・日時 五月 八日(金) 昼座

九日(土) 朝座・昼食・昼座

十日(日) 朝座・昼食・昼座

※朝座 午前十時 より 正午まで

※昼座 午後一時三十分より 三時三十分まで

・講師 広島県呉市 光乗寺 中村 啓誠師

西徳寺三納骨堂 加入者追悼法要のお知らせ

西徳寺納骨堂加入者追悼法要を左記の日程で開催いたします。

・光明殿追悼法要 五月十二日(火) 十時より

・智慧殿追悼法要 五月十三日(水) 十時より

・清浄殿追悼法要 五月十四日(木) 十時より

加入者の皆さまにはすでにご案内が届いていると存じます。どうぞお参り下さいませ。



「第十五回子ども夏まつり」のご案内

「子どものうちから仏さまのご縁を」との願いで始まった「西徳寺子ども夏まつり」。

今年の子どもも夏まつりは参加者みんなで本堂でお参り、住職から仏さまのお話の後、チャイニー古賀さんによる「変面&マジックショー」。その後、本堂を飛び出して恒例の「スイカ割り」。最後は美味しいお弁当とお菓子を配って解散です。



お寺で夏休みの思い出を作りたい

子ども達、どしどし申し込んで下さいね。

○日 時 七月二十日(海の日)

午前十時より十二時半頃まで

○参加対象 保育園児・幼稚園児・小学生

○参加費 一人五百円(当日持参下さい。)

○申込方法 西徳寺までお電話下さい。

(Tel) 〇九四九-二二一〇六三六

○申込締切 七月十五日(水)

※「お念珠」・「お経本」はお寺にて用意します。



西徳寺地域総代について

「西徳寺だより159号」にて、西徳寺の護持運営の方向性を話し合っていたたく組織「総代会」の中、各地域のお世話人である「地域総代」が減少している状況を報告しておりました。

そんな窮状をご理解下さり、今年度より三名の方が新しく地域総代をお引き受けくださいましたので報告させていただきます。

- ・古町総代 西山 靖人さん
- ・知古総代 林 浩昭さん
- ・頓野総代 下村 英隆さん

新総代の皆様、ご多用の中お引き受けくださり感謝いたします。



今年のお盆参りについて、昨年と同様の形式です

①直方市内・市外共に戸別のお盆参りはせず、本堂で合同のお盆参りを基本とさせていただきます。

②ただし、どうしてもご自宅での参りを希望される方は、ご連絡頂けましたら七月下旬から八月七日までの間で調整してお宅に伺います。(ご連絡は七月十日までにお願います。)

③初盆のお宅は、例年通り(市外)八月十日〜十二日、(市内)八月十三日〜十五日の間に一軒ずつお参りさせていただきます。

④八月十日〜二十日まで、月忌参りはお休みさせていただきます。

絵手紙教室のご案内

「ヘタでいい、ヘタがいい」が合言葉。皆さんのご参加をお待ちしております。

- ・講師 直方市感田 油布 紀美子先生
- ・場所 西徳寺門信徒会館
- ・会費 五〇〇円を参加した時だけ
- ・第二百八十九回 五月二十二日(金)
- ・第二百九〇回 六月二十六日(金)
- ・第二百九一回 七月二十四日(金)

午後一時三〇分より
三時三〇分まで

「春の念仏奉仕」お願いいたします

念仏奉仕とは西徳寺境内地の美化作業で、春秋の年二回お願いしております。掃除道具はお寺で準備しますが、使い慣れた道具や草刈り機などお持ちの方はご持参頂けますと助かります。

- ・日時 五月七日(木) 午前九時より 正午まで
- ※雨の場合は中止となります。



おわりに

仏教では争いを終息させるのは忍という。忍とは我慢ではなく、相手を認めること。相手を認めるとは自分の姿に気づく事。それは仏の智慧と慈悲に触れること。つまりはお聴聞。どうぞ本堂へ

